

第5章 高齢者虐待を未然に防ぐために

<ポイント>

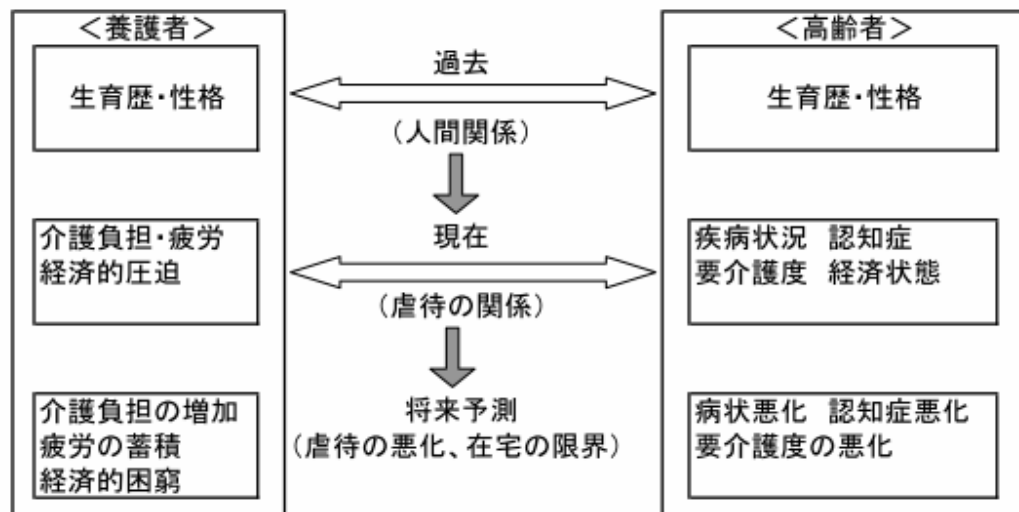
- 虐待の要因は、介護負担や介護ストレスと強い関連を示しています。
- 気づきの視点を身につけましょう→ 高齢者への虐待発見チェックリスト(別記様式3)
- 高齢者虐待は身近に起こりうる問題です。予防・防止していくためには、高齢者を取り巻く関係者の“気づき”が大切です。

1 高齢者虐待の発生要因

養護者の要因	高齢者の要因
・ 介護負担の増大、疲れや介護がいつまで続くのか不安 ・ 介護の方法がわからない。 ・ 介護者の孤独 ・ 介護者に対して理解者、協力者がいない。 ・ 高齢者の病気(認知症など)に対して理解ができていない。 ・ 介護が必要になったことを隠したい。 ・ 高齢者と養護者の過去の特別な人間関係 ・ 経済的な問題 ・ 虐待をしている認識がない。	・ 介護サービスを受けたがらない。 ・ 認知症による問題行動や言動 ・ 介護が必要になったことを隠したい。 ・ 介護者に協力的でない。 ・ 過去の家族関係のトラブル ・ 経済的利害関係問題 ・ 虐待を受けている自覚がない。

高齢者虐待の要因を理解することは、支援の必要性を早期に気づくために有効です。高齢者虐待は、以下の様々な要因が関連して発生するとされています。

【ケース全体の捉え方（イメージ図）】



※高齢者と養護者の間でとれていたバランスが、両者の心身の状態や性格、疾病、経済困窮状態などにより崩れ、そこに過去の相互の複雑な関係が影響しあって起きています。また、これまでしっかりしていた高齢者が認知症などの発症により、両者の力関係が逆転して起こる場合もあります。

2 認知症への理解を深める

「家庭内における高齢者虐待に関する調査」（平成15年度、財団法人医療経済研究機構）の結果では、虐待を受けている高齢者の6割に認知症の症状が見られます。認知症高齢者は、養護者・家族等の言うことが理解できなかったり、周辺症状が現れたりすることがありますが、養護者・家族等がこれを理解できず、又は受け入れることができずに対応してしまうと、認知症の症状が更に悪化する場合があります。また、家族に認知症に関する正しい知識がないために、認知症を恥ずかしいと思って家に閉じ込め、必要な医療や介護を受けさせないという虐待もあります。そこで、認知症高齢者に対する正しい知識や介護方法などについて養護者・家族等や地域住民に理解がなされるような取り組みが必要となります。

<主な対策>

- ① 医師に相談する。
- ② 地域包括支援センターに相談する。
- ③ 道などで行っている認知症サポーター養成講座を受講する。
- ④ その他認知症の講演会に参加する。

3 高齢者虐待を防止する地域づくり

高齢者虐待を防止するためには、地域社会全体で取り組む必要があります。地域の人々に虐待を防ごうという意識を持ってもらい、ちょっとした声かけや世話をしてもらうこと、変化に気づいてもらうことにより、見守りのネットワークができることになります。

見守りやねぎらいの声かけを高齢者だけではなく、養護者にも行うとともに、民生委員等地域社会での見守りを進めることが大切です。

(1) 日常的な声かけ

地域のお年寄りへの日常的な「声かけ」が、高齢者の孤立を防ぎます。

(2) 近所の見守り

夜になっても電気がつかない、新聞が何日もたまっているなど、高齢者の家庭に不審な様子がないかなど、地域での見守りが虐待の防止につながります。

(3) 介護負担の軽減

特定の人が介護を抱え込まず、介護サービスの他、家族や親族、地域の助け合いなどの組合せを検討します。

(4) 相談をすすめる

介護に負担を感じている人に対しては、まず、その気持ちを理解し、苦労をねぎらうことが大切です。

4 高齢者虐待のサインに気づくためのポイント

高齢者虐待を早期に発見し、問題の深刻化を防ぐためには、近隣住民をはじめ、地域の民生委員や自治会などの地域組織、介護保険サービス事業者など高齢者を取り巻く様々な関係者が高齢者虐待に対する認識を深め、虐待の兆候（サイン）に気づくことが大切です。

5 高齢者への虐待発見チェックリスト（別記様式3）

虐待が疑われる場合のサインの例示です。複数のものにあてはまると、疑いの度合いはより濃くなると考えられます。様々なサインを捉え、なぜチェックがついているのか、その背景をアセスメントしたうえで、高齢者や養護者への支援を考えていきましょう。チェックリストの項目だけで虐待と判断するのではなく、全体を把握して虐待の判断に努めてください。